



## グリーン交悠録

ゴルフが取り持つ名士たちとの出会い  
本誌創刊55年の交悠録③

本誌主幹・大中吉一



矢次一夫先生

矢次一夫先生の「国策研究会」と  
「青葉会」でのゴルフの魅力との出会い

本誌主幹 大 中 吉 一

細川隆元氏の紹介で  
矢次一夫先生に出会う

前号は細川隆元先生との出会いとゴルフのおはなしでしたが、今回はその隆元先生にご紹介いただいた矢次一夫氏とゴルフの物語をご紹介します。

細川隆元先生の対談が掲載されるようになったのは小誌が創刊2年目の時ですが、その翌年だったと思います。隆元先生から、私に友人である矢次一夫を紹介するから訪ねてみると言われまして、恐る恐るお訪ねすることになりました。

当時はインターネットの情報などありませんから、事前に姿勢好を知る由もなく、いきなりお訪ねすると、まるで大入道か怪物を思わせるような威容と押し出しの人物で、一瞬怯んだのですが、矢次氏は顔は厳ついが自身は大変に優しい方で、細川隆元の紹介なら「国策研究会」の一員に加えていただけることになりました。

そういえば、国策研究会のメンバーにしていただく前に、赤坂の料

亭「川崎」で毎月開かれている「金杯会」という勉強会にお招きいただきました。そこに居並ぶ面々は、瀬島龍三氏、新日本製鐵(当時)の永野重雄氏・稲山嘉寛氏など政財界の大物たちであり、当日の主役は当時自由民主党の幹事長だった田中角栄氏でした。

金杯会はその名の通り、毎月1人のスピーカーを選び、その話を聞いた後で金杯を贈り、そこになみなみと酒を注ぎ、主役であるスピーカーに金杯ごと供するという趣向でした。矢次氏は金杯に日本酒を満たすと、まず本人が半分ほど飲み、次に田中角栄に飲み干すように言いました。それを一気に飲み干すと、田中角栄氏は

「矢次先生、私は代議士になってこんな嬉しい日はありません。矢次先生は岸信介氏、福田赳夫氏の応援をしていらつしやると聞いておりましたが、本日ここに呼んで頂けることは生涯に渡つての喜びです」とお礼の挨拶をしたのを今でも覚えています。

震える手で金杯を飲み干した田中氏は、矢次先生に促されて1合徳利

を2つ携えて座敷を巡り、金杯会のメンバーひとりひとりにお酌をしてきた姿を今でも覚えています。

### 「青葉会」がゴルフの 素晴らしさを教えてくれた

こうして国策研究会に加えていた私は、次に矢次先生のゴルフの会に呼んでいただけることになりました。「青葉会」というのですが、事務局によると2019年で379回を数えているそうです。年に6回として60年以上も続いているゴルフ会です。

会場となったのは東富士カントリークラブという三菱地所が最初に手掛けたゴルフ場でした。年間6回のうち半分はここで、あとは霞ヶ関カントリー倶楽部、程ヶ谷カントリー倶楽部と相模カントリー倶楽部が会場となりました。当日、東名高速道路経由で東富士カントリークラブを目指しましたが、事故渋滞で多くの参加者が遅れることになりました。矢次先生と私はどちらもせっかちな方なので早めに到着しておりました。そこで遅れてくるみなさんは

さておき、矢次先生と私、そしてなんとか間に合った安倍晋太郎氏、越智通雄氏でスタートすることになったのです。高名な方たちとのラウンドはとても興奮させられるもので、スコアの方がどうだったかは皆目記憶にありませんが、教えられたのはゴルフというのはどんな高名な方でもティーグラウンドに立った時点でゴルフの前では平等であり、そこか

ら夕方まで、1日ゴルフを通じて共有し、お風呂では文字通り裸の付き合いができ、そして懇親会・反省会。それはインタビュ어나料亭の会食では見ることのできない人間の心の機微や素の姿を見ることができ、機会であるということでした。もちろん、ゴルフは戦略のスポーツですから、ショートホール、ミドルホール、ロングホール、グリーン上での

パッティングなどそれぞれにその方の性格も現れてきます。

矢次先生のおかげで、そうしたゴルフ界の効用を知ることができました。

そういえば、当日遅れてきたのは政界からは岸信介、福田赳夫、三塚博、森喜朗など清和会の面々、財界からは会場が三菱地所のコースということで三菱地所の渡辺武

次郎、三菱重工の河野文彦など主だった三菱グループの役員など錚々たるメンバーでした。

### 自然とふれあい、 人とふれあい

矢次先生の「青葉会」というゴルフの会のおかげで知ることになったゴルフの素晴らしさこそ、今まで私を虜にしたものの原点なのです。

何回も大病を患ったおかげで、年間にコースに出る回数大幅に減りましたが、それでも年間40回ほどはコースに出ています。人とのつながりだけでなく、コースに出れば春は新緑、秋は紅葉、四季折々の風景と空気を感ずることが出来ます。そこでゴルフを通じて懇親することが出来るのは素晴らしいことだと思います。

昨今、この懇親がいつの間にか接待になり、接待ゴルフが多くなったように感じます。せっかくのゴルフです。ゴルフ・ウエアに着替えたら一個人に戻り、お互いが懇親出来ることを大切にしていただきたいと思っています。

この本が出る頃は年末です。新型コロナウイルスが収束したら、2021年も是非皆さんとコース上でお会いしたいと思います。



東富士カントリークラブ